

## 議案提案内容

9月議会の議案は国の景気対策としての増額補正が主たるものでした。西鉄へのノンステップバス購入補助、雇用対策、公園用地購入や道路整備事業、

地下鉄七隈線延伸工事費増、人工島の新青果市場建築費増が主たる内容です。また、議員提案で「空き家条例」が出来ました。

## 「生活困窮者自立支援モデル事業」を生かせるように求める

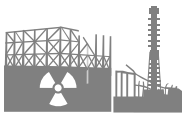


今回の雇用対策のなかで生活困窮者自立支援モデル事業が行われます。この事業は失業などで生活困窮に陥った場合に、一人ひとりの状況に合わせて生活を立て直すために就労支援や住宅費助成制度、生活貸付金制度などの支援事業をコーディネートして支援するというものです。生活困窮に陥った人をサポートする制度は必要ですが、問題は生活保護制度の水際作戦として就労を強要する可能性があります。私はこのモデル事業が福岡市の生活困窮者支援に生かせるよう求めました。

## 空請求の青果市場建設費増額補正予算に反対

9月議会では人工島に建設される新青果市場建設費73億円増額補正が行われました。しかし今年度事業は既に決まっております。増額に伴う工事はなされません。増額された工事費は次年度に繰り越され、空出張のようなものです。福岡市は国からの補助金の額を確実に受け取る約束ができ、国は実際には執行されない補助金を前倒しで執行

した形になり、次年度は新たな補助金枠を確保することになります。国の長期債務は1千兆円を超え、地方の借金200兆円を加えると、国民の借金は一人当たり1千万円です。この様な中で、景気対策として実際には工事が行われないものまで補助金をバラマキ、財政を悪化させる財政運営は問題があり、私はこの補正予算案に反対しました。



## 福岡市が出来る 福島原発事故 被災避難者 支援を求める

福島原発事故子ども被災者支援法が出来て1年半経過しましたが支援は進んでいません。9月に示された「被災者生活支援等施策の推進に関する基本的な方針」は、「支援法」の趣旨が生かされず、支援対象者は福島県内33市町村に限定しています。その他の汚染地区は準支援対象地区としていますが支援措置は不十分で、自主避難者には補償もない状況です。多

くの自主避難者は家族が別れて暮らし、精神的負担、経済的苦境に陥っています。他都市では現状の制度を活用して温かく受け入れており、新たな制度を作らなくても自主避難者の支援は出来ます。私は「現行の制度ですぐできることを福岡市はやるべきだ」と質問しましたが、誠意ある回答はありませんでした。福岡市は「だれにもやさしい、だれでもやさしいユニバーサル都市福岡」をテーマにかかげていますが、「国がしなければ何もしない」というのが実態です。この様な福岡市政を変えるために、今後も粘り強く取り組みます。

## 一般質問

